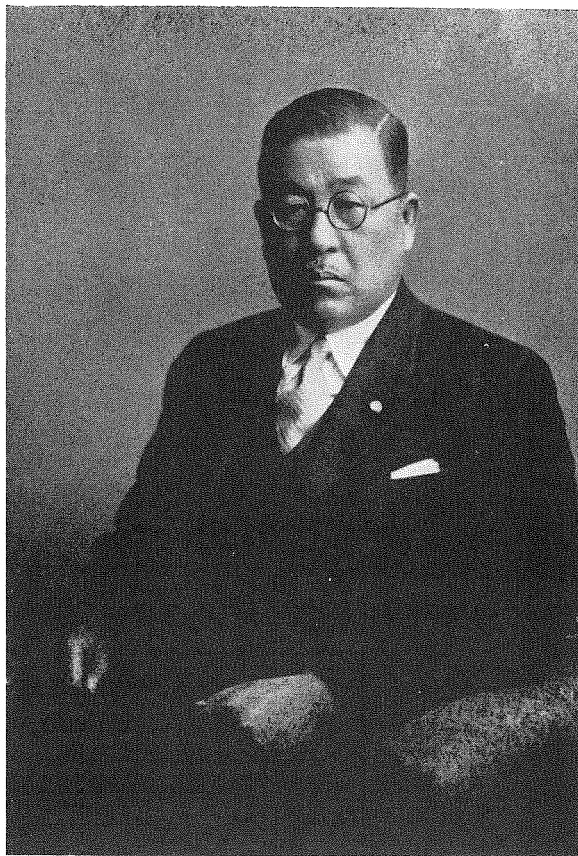


金古久治氏 上海の新都市計畫へ



中支の關門たる大上海建設の都市計畫を實現するため、日支合辦の上海恒産株式會社なるものが、資本金約3千萬圓を以て成立した。之より先、當局では、仙臺土木出張所長たりし田淵壽郎氏を派して、上海都市計畫の調査をなしつゝあつたが、今回の新會社の成立と同時に改めて、名古屋土木出張所長金古久治氏が、新會社の重役として迎へられ、黄浦江下流の新市政府跡を中心として、近代的新上海の都市計畫を實現する事となつた。

計畫としては、道路、港灣、河川、建築用地、工業用地、綠地帯等に及ぶが、特に新上

海港の如きは10萬噸級の巨船をも繫留する大規模のものである。

因に金古氏は福島縣の人、明治42年東京帝大土木科を出て、直に内務省東京土木出張所に入り、利根川改修工事に従事し、次いで荒川改修工事に最も多くを経験し、次いで下關土木出張所長を経て名古屋土木出張所長に轉じた人である。

尙ほ金古氏の外、上海恒産會社に招聘された技術者其他は40名に達し、2月中に一同赴任の途に就いた。